SHIEN（しえん）
No.12
2015 11/1

支縁

http://www.kisokobe.com

神戸国際支縁機構（KISO）季刊誌
【発行人】 岩村義雄 〈携帯 070-5045-7127〉
【事務局】 〒655-0049 神戸市垂水区狩口台5-1-101
Tel(078)782-9697 Fax(078)784-2939
E-mail:kiso@mbe.nifty.com
【石巻支所】 阿部捷一（しょういち）
〒986-2121 宮城県石巻市渡波町3-5-37
Tel(0225)24-3107
E-mail:cp.abe@royal.ocn.ne.jp
年4回 2月、5月、8月、11月
購読料 一部320円+送料80円（年ぎめ 1,600円）

巻頭言

石巻森林組合前代表理事組合長 鈴木 健一

私たち石巻森林組合に2011年の東日本大震災から数ヶ月経ったある日、あの阪神・淡路大震災の時、まだ生まれていなかった、幼かった高校生、大学生たちの訪問を受けました。「私たちにも何かをさせてください」と語る神戸国際支縁機構の若いボランティアの瞳は美しく輝いていました。思えば、渡波での収穫祭、餅つき大会などで日本の将来を担う若い人たちと一緒に海の幸、山の幸をいただいたこと、またわが家の納屋にある昔の足踏み脱穀機を使う昔ながらの農作業にいどんだみなさんとの出会いも懐かしい思い出になりました。神戸に戻った人たちが兵庫県の森林、山、木々と親しく取り組まれることにいささかでもお役に立てたとすれば、私にとって望外の幸せであり、感謝です。

傾聴ボランティアを通して学んだ震災から4年半

神戸から宮城県石巻まで、ボランティアのためこれまでに12万km、約1800時間を車で通い続けています。地球をすでに3周したことになります。参加者も2千人を超えています。大学生、高校生、中学生、小学生、浪人生、社会人、フリーター、ニートなど性別に関係なく老若男女が参加しています。

3・11の最大の被災面積の石巻市は震災前、人口は16万8825人いました。1万人以上減少し、2040年には10万9021人、2060年には、7万7千人になると言われています（「石巻日々新聞」2015年8月11日付）。津波、地震で全壊になった家は2万2357戸もあります。石巻ではまだ1万人以上が仮設住宅（プレハブ住宅）住まいです。6～540世帯の仮設団地は133箇所あります。自治体が民間賃貸住宅を借り上げる「みなし仮設」（民間賃貸住宅）に5327世帯1万4036人が住んでいます。5年にわたる国の集中復興期間は終わろうとしています。

仮設住宅から公営住宅

災害救助法によると仮設住宅にいることができる期間は原則2年。石巻は5年に延長してきました。阪神・淡路大震災の時は、がれきがなくなればそこに家を建てることができました。しかし、津波による東北は地盤が低くなったこと、津波が将来再び襲うかもしれない恐怖、仕事がない理由で同じところに戻れないのです。さらに東京オリンピックや急激な建設ラッシュによる作業者、資材、重機も極端に足りません。建築の働き手が少なく、工期の大幅な遅れが出ています。

阪神・淡路大震災では仮設住宅には4年目で1割しか残っていませんでした。5年目で仮設住宅はほぼなくなりました。一方、東北は自治体が国に交渉、5年から一年延長して6年にしようとしています。4回目の延長です。4年半を経て、東北被災地域の復興住宅に住める割合はまだ1割だからです。中には、2階だけが残った家を修理したり、復興住宅、災害公営住宅の家賃を払うゆとりのある人たちは仙台や、違う地域にいなくなります。150世帯あった仮設団地の住人が半分近くに減ったところもあります。隣近所との関係は公営住宅に入れたとしても、新たな課題になります。2月4日には、52歳の方が石巻市の災害公営住宅で独りでなくなっていました。孤立死などの問題があります。

傾聴ボランティア（第44次 石巻市浜松町）

歯抜けのようになる仮設住宅団地

「また一軒出て行った」と取り残され、行くあてのない被災者は焦りがつのります。狭い部屋です。「大の字になって一度は寝たい」と私たちに訴えます。床や柱が傾いたり、雨漏りなどでかびがはえ、健康にも支障をきたしています。「いつまでここでがまんしなきゃならないのか」「もう限界」「拭いても拭いても湿気でカビだらけなのよ」と将来の見通しが立たない怒り、くやしさ、ストレスがたまっています。うつ病、日中何もやることもないから引きこもり、アルコール依存症も珍しくありません。自力で家を造るにも貯蓄がありません。消費税があがり、貯金も10万円以下の人が増えています。高齢、無職、担保がないので銀行なども貸してくれません。「だれも私たちのことなどかまってくれない」「借金ばかりが残っている」「とうちゃんはもういない」と孤独に耐え、波の音による不安な夜を過ごす人たちについて忘れてはいけません。

ですから、私たちの傾聴ボランティアはこれからです。仮設住宅、在宅被災者、みなし仮設、復興住宅のどこでも若者たちは訪ね、支え合う縁を大切にしていきます。石巻バイパス用地近辺でシバザクラを植えたり、木村襲治さんのアイデアに従い、花を沿道に植えたりします。

ひとりも孤立死に直面しなくなるまでです。

神戸市西区の農法

岸本 豊（第11、19次、および丹波水害）

大震災3日目に、大学生たちが東北に出かけようと声をあげました。そのとき、山本智也君は大学2年生でした。いつしか参加者のリーダーとして責任感をもって役割を果たしました。石巻市渡波との往復も大学卒業式（2013年3月）の時も石巻の「田んぼアート」に備えて農ボランティアに繰り出すほどでした。その後、支えを必要とする人々のために仕える職業、介護、ヘルパーを選びました。2012年、神戸の「Let's 農林漁」で保田茂先生と出会います。東北ボランティアに参加した若者たちは月一度、無農薬、有機の大切さ、ごはん食の恵み、保田ぼかしなどたくさん学びます。毎月、宮城県の石巻市渡波地域農業復興組合阿部勝代表の下で農業を実践します。智也君は昼間の仕事の関係で石巻に頻繁に行けなくなりました。村上裕隆君は同じように石巻で農ボランティア班で土と格闘しています。若者たちは短期間の石巻滞在だけでは、阿部勝、勝徳親子の技術、感性、知識が身につきません。

神戸市須磨区に住んでいる筆者は東北ボランティアに参加し、ご一緒しました。神戸市西区友清で家庭菜園に取り組んでいました。過疎、高齢化、少子化の友清の地域の方たちの中でなんとか顔見知りになり、少しずつ集落に溶け込んでいる矢先に機構と縁ができました。機構は2014年4月から東北ボランティア参加者と炊き出しを始めました。保田先生は路上生活者が農法で自活するのは困難との助言をされました。機構は2013年から友清の地主の森岡忠義氏の土地を契約しています。炊き出しのため「六次産業」を目指して、地産地消できるように励んでいます。企業に勤めていたせいで農にはぜんぜん縁がなかった筆者です。平素、機構のため、物心両面で応援してくださる保田先生の農学校でも農法を学びました。無農薬、有機はコウノトリの餌のどじょうが住みつくことが条件だとも知りました。

神戸市西区友清の友清交差点　櫨谷（はせたに）神社の東側、65号線

作業は最初、孤独でしたが、地元の人たちに受け入れられるようになり、仲間が一人二人と増えてきたおかげで、いっしょにバーベキューを楽しんだりします。2千年近く続いている里山・田園の風景は美しく、都会にはない自然があり、気持ちよく汗をかくことができています。野菜の栽培は雑草との戦いです。智也君、裕隆君に対して、忍耐強く、愛情をもって、ある時には社会で培った人間関係のマナーを教えます。作物を育てるには土壌を耕すことが大切です。機構の若者たちの心をも耕すことに少しでも貢献できれば幸いです。家内も若者たちの成長を気にかけています。柿作りで毎年メディアで紹介される森岡忠義ご夫妻も目を細めて青年たちを見守ってくださいます。友清の同労者に智也君のお父さんの山本勝さんも加わりました。上原俊基さん、河合敏行さんも応援してくださっています。少しでも東遊園地（神戸市中央区市役所南隣）の炊き出し用の新鮮な野菜が備えられればと汗を流します。年金生活でも農のある暮らしは生きがいがあります。半分は農、残りの半分は好きな山登りです。青年たちとの農作業は老いを忘れさせます。代表夫婦にも彼らの成長を喜んでもらえればと情熱がこみあげます。

中央 筆者・右 山本智也君・左 村上裕隆君

連載「むかし、むかし」（その六）

石巻の歴史より　阿部 捷一

1056年「前九年の役」と言われる源義家による安倍貞任征伐の伝説は、東北の平泉文化が栄えるきっかけとなったと伝えられている。石巻市沢田村の京ケ森に安倍貞任の舘があって、真野の陣ヵ森と沼津の鶴舘は源義家（八幡太郎義家）の陣地があった。弓矢による合戦の様子なども語られている。

遠野物語の65話に早池峰は御影石の山なり、この山の小国に向きたる側に安倍ケ城あり…。68話、土淵村には安倍氏と云う家ありて貞任が末なりと云う…。遠野物語拾遺7話、昔八幡太郎が西種山の物見から、安倍貞任は東種山から、互いに矢を射会ったところが、両方の矢が荒谷の空で行き会いともに落ちた。それゆえここを会矢というようになった…。山舘、矢合戦など石巻の伝説と非常に似ている。安倍貞任の末えいが、あちこちに住み、もっともらしく語り伝えたのかもしれない。

（次回へつづく）

新千刈「田んぼアート」前（第29次）

法律相談初回無料。
お気軽にご相談下さい。
宮永法律事務所
弁護士 宮永堯史（みやながたかし）　弁護士 松田康生（まつだやすお）
〒650-0016 神戸市中央区橘通1-2-14
0120-997-181
TEL 078-351-1325 FAX 078-351-1270

TAMANOHADA
代表取締役 三木 晴雄
〒130-0021 東京都墨田区緑3-8-12
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124
URL:www.tamanohada.co.jp

株式会社 チュチュアンナ
代表取締役社長
上田 利昭
tutu anna

MiYOSHi
ミヨシ石鹸株式会社
〒130-0021
東京都墨田区緑3-8-12
TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA
竹中工務店
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1

SERVING MANKIND
Humanity First
「ヒューマニティ・ファスト」
日本アハマディア・ムスリム協会

2015年9月13日㈰午前10時～午後3時
丹波水害一周年

本田 寿久

市島町「ひなたぼっこ」で
鯉のぼり掲揚

「ひなたぼっこカフェ」の今井禎夫&頼子ご夫妻が地域に呼びかけ、入念な準備をして実施。神戸国際支縁機構は鯉のぼり（神戸スイミープロジェクト）と連帯して、協力団体として参加し、代表もあいさつをしました。1年前の2014年8月29日、ライフラインが途絶えた市島町鴨坂の被災者220世帯を対象に炊き出しを呼びかけました。

曹洞宗普蔵岸哲生住職（宮城県亘理地区のボランティア、パテシエの賜物）が回転焼きを担当。来会の兵庫県議会石川憲幸議長や、余田正博自治会長たちも市島の復旧に力を入れてきました。町民たちの願いにも耳を傾けていました。

地元の有志の方たちがフラミンゴなど、種々のイベントとおいしいごちそうを楽しみました。

第2次 ネパール・ボランティア報告

植地 亮太（第42次、丹波水害）

東北ボランティアに参加して、自分のためだけではなく、他の人々のために少しでも役立ちたいと考えるようになり、8月30日～9月7日、もてるものとして体力、時間、少しのお金によって、海外ボランティアに挑戦しました。生まれてはじめて訪問する外国、それも4月25日に阪神・淡路大震災以上であったネパールです。カトマンズ空港に着くと、ネパール人の熱気、笑顔、談笑の勢いに驚きました。道行く車、単車、自転車もエネルギッシュです。豊原正尚副住職にチベット仏教の寺院に案内されました。

初日の夜は、岩村代表は貧しく定職、持ち家、結婚において差別されているダリット層と親しくなります。泊まるホテルも地震でだめになっているから寝袋を持っていくぐらいに思っていました。しかし、違うのです。ボランティアは家や家族、財をなくした人たちに寄りそうために、野宿するのだと言われます。大切なモノを失った人に感情移入するには、「～してあげる」という上からの目線では心が通じません。実際、東北ボランティア、前回のネパール訪問やバヌアツなどでもボランティアはホテルに泊まりません。貧しさ、乏しさ、空腹を共有してこそボランティア道なのだと学びました。初対面にもかかわらず、彼らは見知らぬ日本人のために、地面に寝床をつくってくれたり、温かい人情味あふれる接し方に心打たれました。寝袋がとても暖かく感じ、休みました。ネパールも日本も同じ多神教の国です。日本の「能」の筋書では、旅人が一夜の宿を乞うと必ず門前払いです。「一見さんお断り」なのです。日本とネパールはずいぶん異なるなあという印象です。日本のJRや乗り物で出会う初対面でも家族のように受け入れ合うようになればいいなあと寝床で思いながらいつしか熟睡していました。

フォークや箸を使わず、右手で食事をし、道ですれ違う人にも「ナマステ！」（こんにちは）とあいさつする習慣にもすぐに慣れました。2日目は、ネパール人の心のふるさとであるビゼソリ寺院（Bijeswori temple）に連れて行かれました。そこで一緒に行動している大学生村田義人さんと清掃ボランティアをしました。旅行者と異なり、現地の人たち、被災した人々と共生するボランティア体験は与える側というより受ける側の感動、未知の人たちとのつながり、縁がとても強烈でした。してあげたという感覚はなく、むしろ「サンキュー」と言われたりすることによる励ましをこちらがたくさんいただきました。ネパール人は物質的には決して裕福とは言えません。しかし、よそ者であろうとなかろうとふところが広く、惜しみなくもてなしてくれます。私たちがぜいたくをしないで、ボランティアの格好、態度、笑顔をしていること、被災地で少しでも役立ちたいという気持ちが伝わり、そうしてくださったのでしょう。

県民会館で報告会　2015年9月16日

3日目は、マナハリという田舎に行きました。アデッシュさんの家族や、キリスト教会にも泊めていただき、お腹がはちきれるほど食事などで歓待されます。ボランティアは貧しい人たちと共生するということの体験を深めていきます。大都会のカトマンズは、震災後、約3ヵ月を経て、倒壊家屋を脇目にお金持ちはどんどん元のぜいたくな生活に戻っていく面が見受けられました。一方、数時間離れた地方に行きますと、つつましいながら、親、家、友達を失った子ども、孤児たちは歯を食いしばって耐えています。私たちにできることは限られています。孤独な子どもたちに寄りそうことによって、彼らが大人になったとき、同じように、寂しい思いをしている人たちに積極的に近づくことができるようになればいいなあと思ったりしました。

未知であった国に出かけ、庶民はどこの国でも正直であり、お互いに受け入れあうという見聞を深める機会を与えてくださった神戸国際支縁機構に感謝します。たとえお金がなくても、言葉が通じなくても、文化がちがっても世界中の人たちと親しくなれる自信が深まりました。大学を卒業して、日本と海外を結ぶさらなるチャレンジをしたいと願うようになりました。おそらく国内にいただけなら思いもしなかった契機でしょう。ありがとうございました。

ビゼソリ寺院
左端 筆者・隣 代表・右端 村田充八さん

特定非営利活動法人
みもざ
TEL 078-262-0460
医療・保健介護・
福祉・教育に関する事業
共生社会の実現

不動産　売買・賃貸・管理・店舗は
本田商会
〒662-0051 西宮市羽衣町５－23
電　話：0798-38-7560
ＦＡＸ：0798-38-7561
お気軽にご相談ください。

ヤマザキ
世界のパン
ヤマザキ

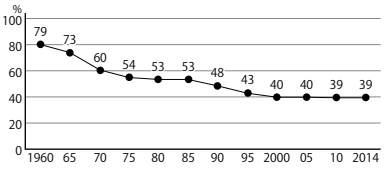
KINSAN
夢に近づく
夢を産み出す…
近畿産業信用組合
総合コールセンター
0120-111-019

連載「田・山・湾の復活」（その九）

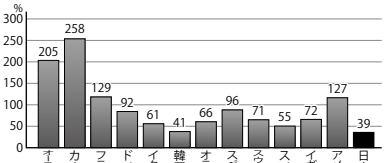
岩村 義雄

温帯モンスーンによる美しい山川、照葉樹林の落ち葉からにじみ出る清流と空気、肥沃な土に植物相と動物相が織りなす環境は豊かな産物をもたらしてきました。

神戸国際支縁機構が耕作する宮城県石巻市渡波、神戸市西区友清の田畑の周囲を見渡しますと、日本の農業の実態がわかります。農家の高齢化、後継者不足、農業所得の減少は若い人々の就農を阻んでいます。2014年度の日本の食料自給率はカロリーベースで39％です。アメリカ127％、フランス129％、ドイツ92％、英国72％です。日本の食料自給率は先進国の中で最低の水準です[30]。



日本の食糧自給率の推移
（カロリーベース 農林水産省 2014年）



各国の食糧自給率（同）

自給率39％とは、海外から食べ物が入って来なくなると、6割の日本人が死ぬという割合です。また私たちの肉体の60％は輸入食品で成り立っていることになります。外国の農家のために日本人は会社などで汗して働いています。つまりアメリカ、オーストラリアなどの食糧生産者のために労働して、先祖から受け継いできた土地は生産する場所ではなく、商品として売買されています。地球全体の食料は年間24億トンです。しかし、発展途上国の8億500万人が飢餓に直面しています。アフリカでは5歳以下の子どもが年間500万人栄養不良により死にます[31]。一方、日本では賞味期限などのため毎日3000万食を廃棄しています。グローバル企業の貪欲な利益のために食糧輸入などマネーゲームにより食べることができない子どもが増えています。日本も例外ではありません。

人間と自然の関係 共存を模索し実践

月に一回しか宮城県石巻市渡波の農作業に行かない私たちにとり、雑草対策は大きな課題です。2011年から渡波、沢田での米づくりは地元の農家の助けがないと雑草がはびこってしまいました。2013年以降、同市の新千刈、際前で無農薬、有機でやってみました。雑草が生えにくくするため、田植え時に深水にします。化学肥料、除草剤はいっさいやりません。保田ぼかし（無農薬、有機による乳酸菌こやし）を神戸でつくっておき、石巻に運び、施すだけです。

手による田植え、稲刈り、天日干し、昔ながらの稲こき機を使う脱穀にこだわります。

2015年度もネオニコチノイド系農薬を使わない「ツヤヒメ」の苗を宮城県大崎市の千葉富男氏から購入しました。30㎝間隔で万石浦幼稚園（北川禮子園長）の園児たちと植えます。保田茂先生（コウノトリ野生復帰推進連絡協議会会長）はコウノトリ復帰のために、兵庫県豊岡市などで手間がかかる無農薬栽培をさきがけてきました。機構の若者たちにも農薬に頼らない農法を2012年から指導しています。コウノトリは一日に約500gの餌を食べます。イトトミズ、ユスリカ、ドジョウなどが田んぼにいることが決め手です。今年もイヌビエなどの雑草も月に一度の除草ですみました。

今、日本の農業は瀬戸際に立たされています。環境、食物も危機に直面しています。

「田んぼアート」コウノトリ　宮城県石巻市沢田

日本の農地をつぶさない

TPP＝環太平洋パートナーシップ協定により、農林水産物の2328品目の81％の関税はなくなります。野菜、果物の1195品目は即時撤廃します[32]。関税がなくなると、海外からの農産物は日本中の売場でだんぜん安く、国産の農産物は作っても売れなくなります。つまり安いコメ、麦もどんどん洪水のように入ってきます。コメだけでなく、野菜のニンジン、ジャガイモ、タマネギなど保存のきく野菜も値段は太刀打ちできません。また遺伝子組み換え、表示義務もなくなり、食品添加物の制限もなくなり、検査なしの除草剤まみれの食品を日本人は食べなければなりません。

「輸入モノの方がやすい」に惑わされてはなりません。企業のために円安政策ですから、小麦、植物性油脂にしてもむしろ輸入価格はあがっています。さらに、米国と同じ「チェック・オフ制度」を日本でも政府は導入します[33]。すると追い込まれている農家からお金を集めるのです。農産物の消費拡大、輸出促進のシステムをすすめるためです。TPPが目指す経済利益優先はますます食糧自給率をゼロに追いやります。安全で、健康的な、おいしい自産自消「自分で作って、自分で食べる（消費する）」の国に取り戻してはじめて、子々孫々に豊かな風土を残すことができます。

「荒れ果てた地、そこを通るすべての人に荒れ地と見えていた土地が耕されるようになる。そのとき人々は、『荒れ果てていたこの土地がエデンの園のようになった。荒れ果て破壊されて廃虚となった町々が、城壁のある人の住む町になった』と言う。」（エゼキエル三六・34－35）。

30 「食糧需給表」（農林水産省 2014年度）
31 Food and Agriculture Organization of the United Nations 2014。
32 「日本農業新聞」（2015年10月20日付）
33 「毎日新聞」（2015年10月18日付）

㈳神戸国際支縁機構

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,000円/1年　　賛助会員は、一口5,000円/1年

- **郵便振替**　口座　00900-8-58077
  加入者名　一般社団法人 神戸国際支縁機構
- **三菱東京UFJ銀行**
  462（三宮支店）　普通 3169863
  神戸国際支縁機構　岩村義雄

海外の救援金には必ず「○○のために」と書き添えてください。

事務局長　　本田 寿久

ご協力を感謝します。（敬称略）

2015年7月12日～10月17日

古本純一郎、古本佳世子、乾祐子、岩村義雄、岩村カヨ子、神戸国際キリスト教会、毛藤智夫、保田薫、川端勝、木村襲治、土取充、本田寿久、森一郎、藤丸秀浄（法専寺住職）、森祐理、アハマディア・ムスリム協会、仲野幹、日野謙一、宮坂信章、岡崎孝、西佑華、鈴木淳之介、西上千栄子、宮氏道夫、匿名4人分、KISO牧場、中山敬一郎、宮本博美、赤川祥夫、貞松・浜田バレエ団、土屋友誇縦、大田正紀、垂水朝祷会、五百井正浩（玉龍寺住職）、栫和彦、宮永堯史、中道澄春、村田充八、清洲山王宮日吉神社、赤井陽介、小野奨、森本拳士朗、森田一生、坂井良行（高野山真言宗西方院住職）、清水富士雄、栄澤紀子、任良平、竹駒神社、阿部和夫、阿部斉子、市川啓一、塩屋キリスト教会、垂水朝祷会、藤本英樹、原田洋子、万石浦幼稚園、伊吹三樹雄　　合計798,000円

バヌアツ献金

岩早野美智子、小野奨、大江良一、山下妙子、佐谷文子、左成和朗、酒井彰、酒井久美子、左成和朗、石川清久、磯辺基博、庄司慈明、栄澤紀子、石巻こども保育園職員一同、武藤豊、武藤幸子　　**目標額780万円**　　計102,140円　不足額6,012,925円

ネパール献金

兵庫県青少年本部、兵庫県青少年課、神出学園、兵庫県山の学校、兎和野高原野外教育センター、青団連（個人、OAA）、東垂水ルーテル教会、水垣渉、兵庫県青年洋上大学同窓会、山下妙子、木村襲治、村田充八、佐谷文子、酒井彰、酒井久美子、左成和朗、石川久子、ゲーベルひでみ、清洲山王宮日吉神社、庄司慈明、第2次ネパール報告会、栄澤紀子、石巻ひがし保育園職員一同、武藤豊、武藤幸子　　**目標額270万円**　　計213,798円　不足額1,906,289円

編集後記

毎週木曜日の炊き出しの調理は阪神電鉄岩屋駅近くの神戸フィラデルフィヤ教会（大嶋善直牧師）の2階をお借りしています。できあがるやいなや、ミヨシ石鹸株式会社（三木晴雄社長）が贈呈してくださったハイエースで路上生活者たちがまっておられる東遊園地（神戸市中央区市役所南隣）に運びます。炊き出しの具材はフードバンク関西や、機構が契約している神戸市西区友清の野菜畑の無農薬栽培の収穫物を用います。夏は腐ったり、カビがはえるので、冷蔵庫が必要です。7月29日、機構は同教会に400ℓの大型冷蔵庫を運び入れました。畑の帰路、ころがす用具を購入して、機構の事務所で積み込み作業をしました。ハイエースに積み込もうとします。障がい者用の車輌ですから、自動リフトで持ち上げるとはいえ、大きくて乗りません。座席を取り外して、蚊と戦いながら、村上裕隆君がもってきた毛布を活用して、積み込み、教会の2階にまで搬入しました。そんな労苦も野宿者の喜びにつながると思うと、ルンルン気分でした。　山本 智也